地域との交流を広めて (94)

二ツ井署・経営課　　飯塚　充由

はじめに

森林の重要性についての認識が国内外に高まる中で、国有林に対する社会的要請も多様化、高度化し、国有林をめぐる諸情勢は非常に厳しいものがあります。

このような中で、国有林野事業の経営改善を円滑に進めていくためには、是非とも地域住民の理解と協力を求めていくことが大切です。

当署では、本年度も二ツ井町等が開催している行事への積極的な参加、記念植樹及び森林教室等を通して地域とふれあい、開かれた国有林を目指し職員が一体となって取り組んできました。

また、地域住民に対して、森林及び林業のＰＲに努め、森林・林業への関心を高めるとともに国有林野事業の運営に対する理解を深めていくためのエリアを設置しようと署長はじめ全職員が一致協力し、その実現に努力しています。

これらの取り組んだ各種行事の内容及び来年度に実施する「ふれあいの場」としてのエリア構想について報告するとともに、営林署や森林のイメージについて地域住民に対して実施したアンケート調査結果を踏まえ、当署の今後の取り組みについて考えてみました。

１．各種行事の取り組み

今年度は、表１に掲げる行事を実施しました。その中の主なものについて紹介します。

(1) 森林教室

６月２６日と７月２１日には、藤里町の米田小学校と藤里小学校の次代を担う児童たちに対して、国有林野事業を通して、林業・木材のＰＲを目的とした内容で森林教室を実施し緑の大切さを訴えました。児童達からは、「緑は私

表１　元年度実施した行事

１．「みどりの日」のパレード	４月２９日
２．「みどりの日」の記念植樹	５月１５日
３．森林教室	６月２６日，７月２１日
４．交通パレードと街頭指導	
① 春期	４月　６日～１５日
② 秋期	９月２１日～３０日
５．「秋田杉の里･二ツ井祭り」へ参加	８月　４日～　７日
６．ミニ森林の市	１０月１１日～１３日
７．二ツ井町「産業祭」へ参加	１１月１１日～１２日

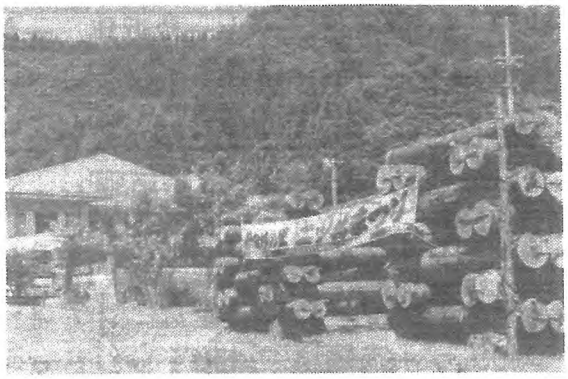
たちを守ってくれている」等いろいろな感想文が寄せられています。

(2) 「秋田杉の里・二ツ井まつり」へ参加

８月４日～７日には、東北三大夏祭りに合わせ、きみまち阪公園大駐車場で第２回の「秋田杉の里・二ツ井まつり」が開催されました。当署からは、会場の一角に森林コーナーを設け、山の仕事の歴史紹介パネル、森林教室「森林と友達になろう」のパネル、山腹復旧工事のパネル、清水混先生の「山と水」パネルを展示、また、山の作業用具としてリモコンチェンソー、刈払い機、玉切り装置等を展示しました。その他、分収育林オーナー募集、緑と水の森林基金のＰＲ、体験コーナーとしてのこぎりによる小径丸太の輪切りなどで国有林のＰＲに努めました。

森林教室の様子

「秋田杉の里・二ツ井まつり」の会場



会場には、樹齢２００年を超える天然秋田杉の一連丸太を中央に展示し、また、会場の入口には秋田杉を組んだ井桁積みを据えてイベントのＰＲ効果を大いにあげ、地域との交流も深めました。

(3) ミニ森林の市

１０月１１日～１３日の３日間、地域の住民に対し緑化思想の普及宣伝に、地利を活かし国道７号線に面した当署の駐車場を会場に緑化木の即売会を開催しました。

会場には、シャクナゲ、ナナカマド、ブナ、イチョウ等の緑化木１３種類１１０本、秋田杉の末木で作った杭や秋田杉の伐根のほか、６３年度に特定事業として作成した約２０平方ｍの組立ハウス（価格５０万円）も展示販売しました。また、町内の木工業者の協力を得て、杉の桶やお盆などの小木工品の展示販売も行いました。

ミニ森林の市

今回の森林の市は、当署では初めてのものであり、プロジェクトチームで検討を重ね、開催に当たっては職員による手作りのチ

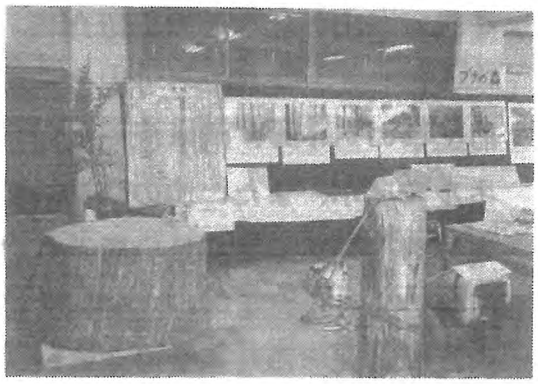
ラシを町内に配布するなどしてＰＲに努めました。その結果、緑化木等を買い求める地域の人々や国道を通るドライバーが大勢つめかけ賑わいをみせた３日間となり、地域の人々のふれあいの場として大いに好評を博しました。

(4) 産業祭へ参加

収穫の秋を飾る二ツ井町産業祭が二ツ井中学校を中心会場に、１１月１１日、１２日の２日間にわたって開催されました。

当署においても、同中学校の木工室に森林コーナーを開設し、森林教室「森林と友達になろう」のパネル、山腹復旧工事のパネルを展示したり、秋田杉コーナーや近年、一般の人に関心を呼んでいるブナ林をもっとよく知って頂こうということからブナコーナーを設けました。この秋田杉コーナーでは、秋田杉の林相パネル、２６０年生の天然杉の伐根、７３年生の杉丸太等を展示しました。また、ブナコーナーでは、ブナ林のパネル、保残伐施業のパネル、ブナの種子、鉢植えにしたブナの稚樹、ブナのフローリングなどの製品を展示しました。その他に、リモコンチェンソー、収穫調査用具等の作業用具の展示、「日本の林業」や「ブナ物語」等のビデオ放映、パソコンコーナーや丸太切り体験コーナーの設置、特に小中学生に人気のあったパソコンによる森林クイズや丸太切りは１日中大賑わいでした。

産業祭での森林コーナー



初日には、二ツ井町内の切石、仁鮒の両小学校の５、６年生が社会科の勉強にと会場を訪れ大変な賑わいでした。わずか２日間の森林コーナーでしたが、開かれた国有林として、地域の交流、そしてつながりを深めた催しでした。

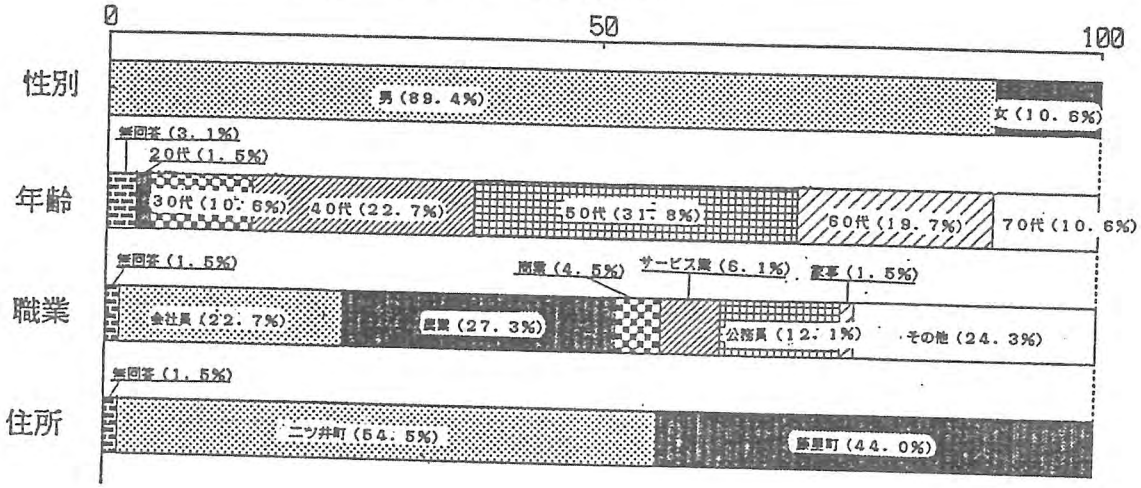
２．アンケート実施結果

地域住民が営林署や森林に対してどのようなイメージをいだいているか、今後の地域活動に役立てるために地域住民に対してアンケート調査を実施しました。

アンケートは、当署管内である二ツ井町及び藤里町の住民を対象として、職員が手分けし６６人から回収しました。

１５項目について実施したアンケートの中から特に参考となる項目を分析してみました。

図１　アンケート対象者



問１．営林署がどのような仕事をしているか知っていますか？

この結果については、ほとんどの人が「知っている」と回答しており、対象の年代層から考え、営林署と何らかの関係があった人達が殆どで、そのため仕事内容を理解しているものと思われます。

問２．営林署に入りやすいですか？

問３．営林署のイメージは？

これらの問に対して、「入りづらい」（３４．８%）、「堅い」（４５．５%）がそれぞれ最も高い回答率でした。これから言える当署のイメージは、堅くて入りづらいということになります。

問２のコメントを一部紹介しますと「建物全体の雰囲気がいかにも役所的だ」、「知っている人がいなくて親しみがない」、「事務服の色やデザインを変えてみては」等の意見がありました。

これらのことは、地域とのふれあいがま

図２　問１

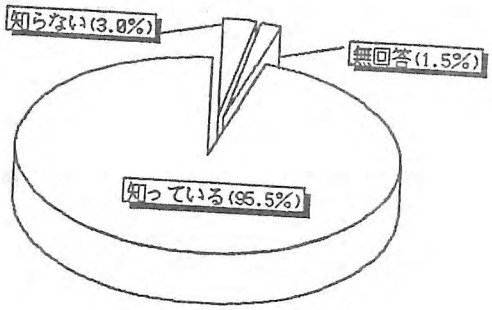


図３　問２

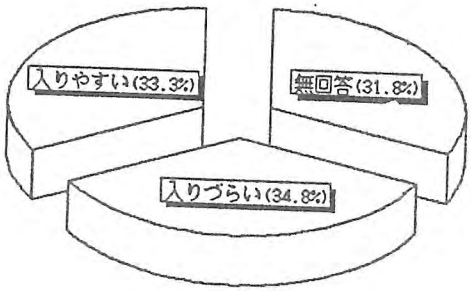
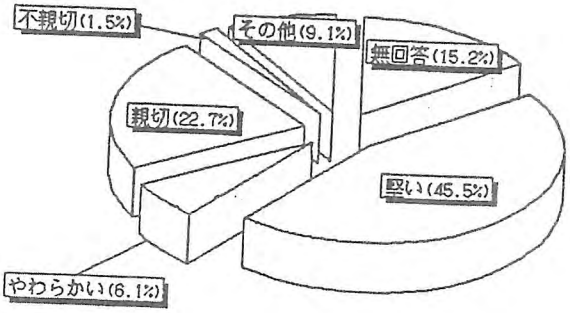


図４　問３



だまだ十分でないことを現していると思います。

問４．山に行く目的は？

この問の結果については、「山菜狩り」、「ハイキング等」、「登山」の順になっています。

問５．山に行って体験してみたいことは？

この問の結果は、「山菜狩り」、「植物等の観察」、「小屋づくり」の順になっています。

この問４、５から、地域住民は山菜狩りとしての山のイメージがまだまだ根強いことを示していると考えられます。しかし、問５では「植物等の観察」の回答が３０．３％と高い割合を示し、森林に対する関心が高いことがうかがわれます。

問６．森林教室、森林の市という行事を知っていますか？

「知っている」と回答した人は、６２．１％でそれほど高い割合とは言えず、ＰＲが不十分であることを現しています。

図５　問４

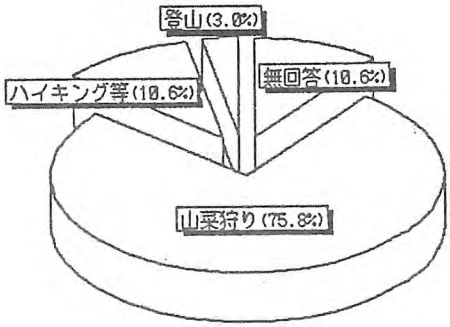


図６　問５

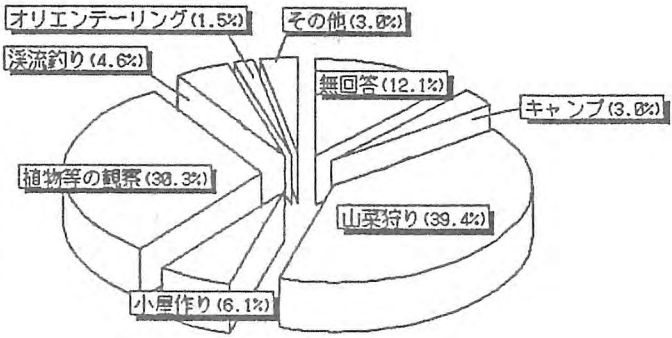
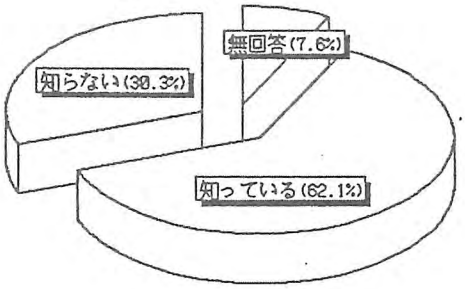


図７　問６



問７．日本の森林面積は国土の何パーセントくらいですか？

問８．木材の輸入割合は？

これらの正解率は、それぞれ５７．６％、５４．５％となっています。これだけで判断することはできないと思いますが、森林・林業を理解して頂くために何らかの手段によってそのＰＲに努める必要があります。

図８　問７

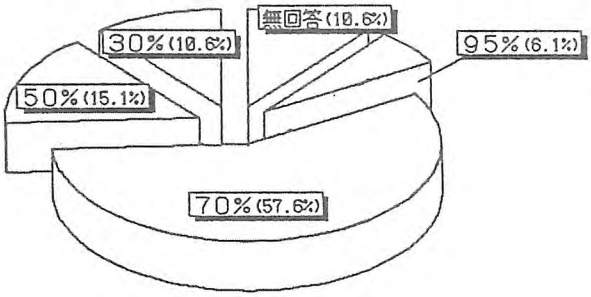
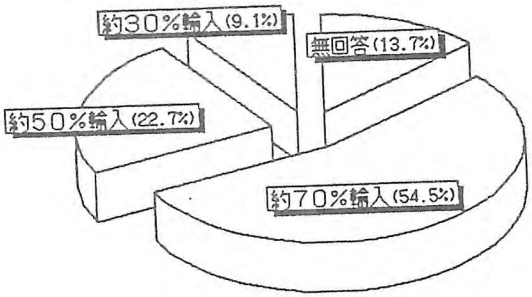


図９　問８



最後に、営林署に対しての主な要望については次のとおりです。

(1).自然を守って

(2).年一度の緑化木即売会を

(3).森林教室の定期的開催を

(4).直営のキャンプ場等の野外施設の設置を

(5).木材の安定供給

(6).これまで以上に地元に密着した営林署を

(7).もっと森林機能のＰＲを

(8).もっと計画的な伐採・保育を

(9).自由に出入りでき親しめる営林署を

(10).山をみる会等の企画を

３．今後の取り組み

今年度実施した行事についての反省点やアンケート調査結果から、今後、森林、林業への理解を地域へ広めるためにはどのような取り組みが必要かを考えてみました。

各種行事に取り組む場合、プロジェクトチームを作り論議して企画を立てていますが、具体的に着手していく段階では結果的に毎年同じ様な展示内容になってしまいます。また、森林・林業の場合の展示物は限られており、写真パネル、図表等が多くなってしまいます。そのほか、森林コーナーとして設けた場合、その規模が小さいことにより訪れた人の興味を引き付けることが出来ないときもありました。

こうした反省やアンケート結果を総合すれば、今後の取り組みとして、

(1).森林コーナーとして展示不足とならないように、隣接営林署や林業業界との合同開催または協力依頼。

(2).森林・林業のＰＲをもっと重視した内容とし、その大切さを訴える。

例えば、施業面では母樹保残方式の広葉樹林施業、国土保全・水源かん養等の森林機能、森林資源の利用面では生活必需品としてのその重要性など

(3).森林コーナーに訪れる見学者を引き付けるため、分かりやすい案内板の設置、チラシの配布、そのほか親しみやすい地域周辺の森林の様子等を写真パネルにするなどの工夫。

(4).今後も小中学校、新聞社等に積極的な働きかけを行い、森林教室、体験教室等の野外教育を定期的に実施する。

(5).地域住民に対し、森林に直に触れ緑に親しんでもらうことにより、森林・林業の大切さをＰＲするエリアの設置。

(6).地域住民の要望も多様化の傾向にあり、各種行事を企画する上での専門的知識が必要であり、これに対応する職員の研修。

(7).「さわやか行政サービス推進委員会」において、積極的に諸活動を実施し、地域住民の立場に立った親切な対応に努める。

等が必要であると考えます。

４．ブナ公園（仮称）の設置について

(1) 設置の目的

現在、義務教育において森林・林業に関する部分が非常に少なくなっています。また、アンケート調査からも理解度が高いとは言えません。このことから、森林教室、親と子の体験教室、森林浴の集い等による野外教育が必要となっています。また、森林・林業をより多くの人に正しく理解してもらうためのＰＲも必要です。特に、天然林施業については、当署においてもブナを主とする広葉樹林の保残伐施業を体系的に実行しており、その施業方法等を積極的にＰＲしていかなければなりません。地域住民の理解を得て国有林野事業を進めなければならない状況からもこれらの啓蒙運動は、地域住民から広めて行く必要があります。そこで、地域住民が自由に入林し、直接肌で森林に触れ、その仕組みや成立ちを直に観察し、より緑に親しみ森林・林業の認識を深めて頂くためのエリアを設置しようとするものです。

(2) 対象箇所の地況及び林況

対象箇所は、二ツ井事業区２よ、２れ、３ち、３り1～３り3、３か林小班の７箇所で、米代川の支流、種梅川上流に位置し、標高約３５０～５５０ｍで区域面積は約５７ｈａです。林況は、１４齢級、２３齢級、２７齢級及び３１齢級のブナを主とする二次林、６３年度に保残伐施業を実施した跡地及び５０年生の人工林にブナを主とする有用広葉樹が侵入し、針広混交林状態を形成している林分の３種に分けられます。針広混交林は、スギ人工林からブナを主とする広葉樹林への誘導を目的とした試験地（平成元年度設定）です。

(3) エリア内の整備構想

エリア内は、地域住民、特に小学生を対象にした森林教室、体験教室、森林浴等の野外教育として緑に親しめるものにしなければなりません。

そこで、林分の特徴を活かし次のように想定しました。

①区域内の散策路は、旧歩道を利用しながらできるだけ等高線上に緩勾配の歩道となるよう約１，０００ｍを作設します。

②二次林内の樹種は、ブナが主であるがその他にウダイカンバ、イタヤカエデ、サワグルミ、ミズナラ、センノキ、カツラ、ニレ等、１０数種に及んでおり、豊富な樹種を利用して散策路沿いに樹種名プレートを設置して、より関心を引くようにします。

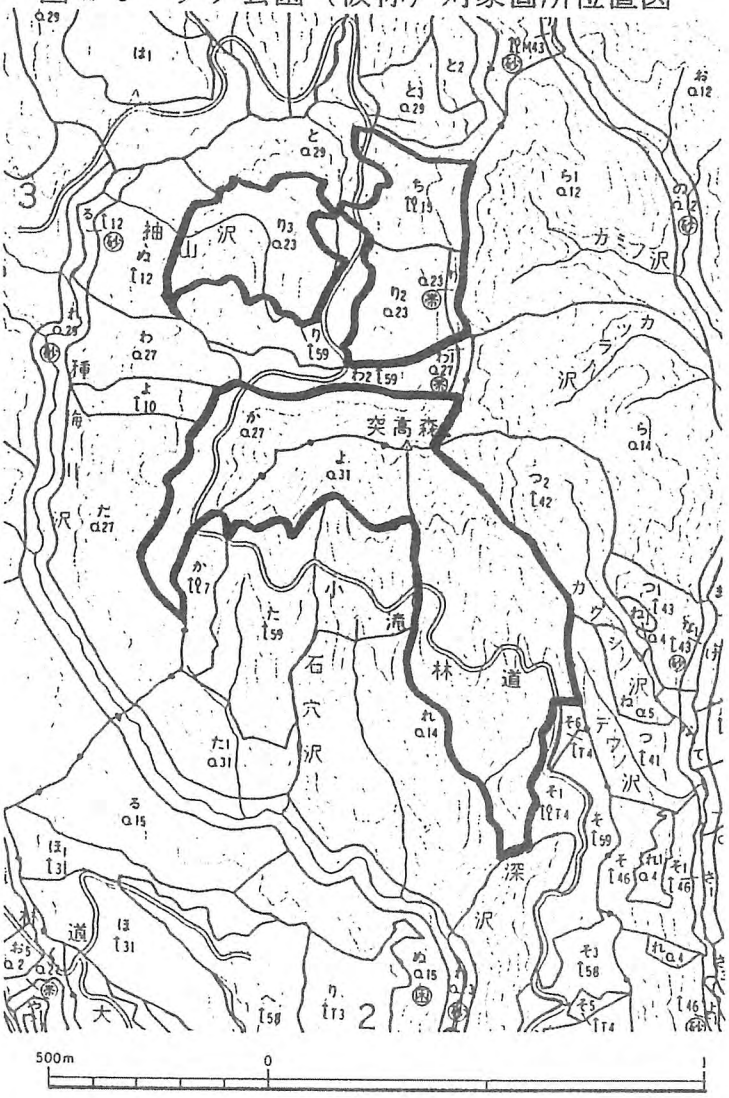
また、③町内の小中学生を対象に教育委員会を通じて巣箱コンクールを開催し、生徒の手によって出品作を設置するといった企画を考えています。

その他、④二次林内には、寒ワラビが自生しており、これを活かし寒ワラビ園を設けます。

また、⑤同林内には、１１０数年前の炭焼き窯の跡があり、当時前生樹を製炭事業として利用していたとうかがえます。この炭焼き窯を復元し、体験教室として利用できるように整備します。

最後に、⑥利用者により理解して頂くために、標識類は、模式図による保残伐施業法の説明板、立体略図による案内板等、工夫を凝らしたものを設置した

図１０　ブナ公園（仮称）対象箇所位置図



対象地林内（３り2林小班）

いと考えています。

(4) 署現場における森林施業技術者の育成

署においての施業技術に関する知識はこれまで以上に必要となっています。特に地域住民と最も密着している担当区主任においては、その知識は重要です。

そのために、年に数回の勉強会を積極的に実施して、地域の人に対応できる人材の育成に努めたいと考えております。

おわりに

地域との連携を密にし、その地域の行事に積極的に参加したことにより、国有林野事業に対する理解と支援協力関係がより一層緊密となってきました。

各行事を営林署単独で実施することは予算上も含め効果が半減することになると思います。このような問題を解決するうえでも、自治体や各種団体と積極的な連携を図りながら諸行事を進めることは、地域とのふれあいを広め国有林野事業のＰＲに大きく貢献するものと考えています。